

石巻広域圏におけるごみ処理の課題及び検討方針等の整理（案）

第 1 回検討委員会での意見に対する整理

No.	主な意見	対応
1	【基本方針】 新ごみ処理施設では、環境のことを学べる、体験できることも課題として考えてほしい。	基本方針として、石巻広域圏における資源循環や脱炭素に関する学習・体験機能の検討を盛り込みます。
2	【基本方針】 ごみの減量化について、施設と圏域住民が共に取り組めるように、3Rの推進及び教育ができるような施設整備を考えてほしい。	
3	【処理方式の検討方針】 粗大ごみ処理の停滞の解消について、処理の停滞の原因を明確にしたほうがよい。	処理の停滞の原因は、設備劣化による処理能力の低下や受入貯留スペースの不足と考えます。検討方針としては、処理方式の検討と併せて、粗大ごみの処理方法や受入貯留方法を考慮します。
4	【処理方式の検討方針】 【施設規模の検討方針】 刈草処理について、どのように対応すべきと考えているのか。	組織市町の施策と整合性を図り、新ごみ処理施設で刈草の受入れ、処理が可能となるように、処理方式の検討、施設規模の検討において考慮します。
5	【処理方式の検討方針】 受入可能寸法を現状の50cmから大きくすることについては、処理施設入口での詰まりの可能性も含めて検討したほうがよい。	粗大ごみの処理能力の停滞の解消については、受入可能寸法の考慮ではなく、No. 3 による対応とします。
6	【処理方式の検討方針】 ニホンジカ等の駆除に対して、新ごみ処理施設で対応できるように検討したほうがよい。 処分する場合は、専焼炉という考えだけではなく、冷凍して切断しピットに投入する等方法については、処理量に応じて検討したほうが良い。	組織市町の施策と整合性を図り、新ごみ処理施設でニホンジカ等の受入れ、処理が可能となるように、処理方式の検討、施設規模の検討において考慮します。 ニホンジカ等は、その大きさから、そのまま処理施設へ投入することが困難と考えますので、処理量も踏まえ、専焼炉の併設、冷凍庫を設けて冷凍後に破碎して処理施設へ投入等、新ごみ処理施設の処理方式との最適な組合せを考慮します。

No.	主な意見	対応
7	【処理方式の検討方針】 焼却残さの有効利用方策の考慮においては、方策だけでなく、資源化先の受入れ状況も含めて検討したほうがよい。	検討方針として、資源化先の受入れ状況等、実現可能性も含めて考慮します。
8	【施設規模の検討方針】 災害時の一時多量罹災ごみの処理については、新ごみ処理施設で処理しきれない部分の処理、災害廃棄物のストック場所の確保についても検討したほうがよい。	大規模災害時における災害廃棄物については、組織市町の災害廃棄物処理計画に基づき処理を行います。 新ごみ処理施設の施設規模への災害廃棄物量の反映については、循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について（通知）を基本とし、組織市町の災害廃棄物処理計画等にも配慮して検討します。 災害廃棄物のストック場所の確保に関しては、災害廃棄物に限定せず、更なるごみ処理事業の安定化を目指し、一時的なごみの受入調整機能としてのストックヤードの確保を検討します。
9	【整備用地の検討方針】 新ごみ処理施設の立地場所については、ごみ収集による二酸化炭素排出量削減の観点も検討方針に入れたほうがよい。	適地の二次選定、三次選定（整備候補地選定）における評価の視点として反映します。

石巻広域圏におけるごみ処理の課題及び検討方針等の整理（案）（1 / 3）

新ごみ処理施設整備における検討方針					基本構想への反映
検討方針区分	課題の概要	検討方針（案）修正前	検討方針（案）修正後	検討方針（案） 修正及び追加理由	
(1) 処理方式の検討方針	<ul style="list-style-type: none"> 粗大ごみ処理の能力向上による処理の停滞の解消 組織市町において処理に苦慮している、鹿等の中型・大型動物の処理、刈草の処理、大雨等、局所災害時の一時多量罹災ごみの処理への対応 	①処理方式の検討において、受入可能寸法を考慮する。	①処理方式の検討と併せて、粗大ごみの処理方法・受入貯留方法を考慮する。	委員意見（No.3）を踏まえ修正	処理方式の検討において考慮する事項として整理
		②中型・大型動物の処理については、専焼炉の併設等も含めて検討する。 ③処理方式の検討において、刈草の処理を考慮する。 ④処理方式の検討において、災害廃棄物を考慮する。			
	<ul style="list-style-type: none"> 更なる二酸化炭素排出量の抑制や高効率なエネルギー回収による脱炭素化への貢献 	⑤処理方式の検討において、二酸化炭素排出量の抑制や高効率なエネルギー回収方策の導入を考慮する。			
<ul style="list-style-type: none"> 最終処分場の負荷低減を見据えた、焼却残さの減量化、有効利用方法の検討 	⑥処理方式の検討において、ごみ焼却施設+焼却残さ資源化、ガス化溶融炉等、焼却残さの有効利用方策を考慮する。	⑥処理方式の検討において、ごみ焼却施設+焼却残さ資源化、ガス化溶融炉等、焼却残さの有効利用方策について実現可能性も含めて考慮する。	委員意見（No.7）を踏まえ修正		

石巻広域圏におけるごみ処理の課題及び検討方針等の整理（案）（2 / 3）

新ごみ処理施設整備における検討方針					基本構想への反映
検討方針区分	課題の概要	検討方針（案）修正前	検討方針（案）修正後	検討方針（案） 修正及び追加理由	
(2) 施設規模の検討方針	・プラスチック分別によるごみ量、ごみの性状の変化への対応	①計画ごみ量、計画ごみ質の設定において、プラスチック分別による影響を反映する。			基本計画での施設規模算定時の反映事項として整理
	・刈草の処理量増加によるごみ量変化への対応	②計画ごみ量の設定において、刈草の処理を行うことによる影響を反映する。			
	・大規模災害や局所災害時の一時多量罹災ごみへの対応（施設規模への災害廃棄物処理量の反映）	③計画ごみ量の設定において、災害廃棄物処理計画等に基づき、災害廃棄物や一時多量罹災ごみの処理を反映する。	③循環型社会形成推進交付金等に係る施設の整備規模について（通知）（施設規模の10%を上限に災害廃棄物処理量を見込むことができる）を基本とし、組織市町の災害廃棄物処理計画等にも配慮して検討する。 なお、災害廃棄物の広域処理についても検討していく。	委員意見（No.8）を踏まえ修正	
(3) 環境保全に関する基準の検討方針	・施設稼働に伴う周辺環境への影響の抑制	①排ガス基準等、環境保全に関する基準については、必要となる処理設備や処理に伴う環境負荷（例えば、薬剤吹込み量等）も考慮して検討する。			環境保全に関する基準の検討において考慮する事項として整理
(4) 事業方式の検討方針	・人口減少の中で、財政負担の軽減を図りつつ、効率的かつ効果的な事業方式の検討	①事業方式については公設公営、公設民営、民設民営について整理の上で最適な方法を検討する。			事業方式による財政的な効果、メリット・デメリットを、別途、事業方式調査（PFI等導入可能性調査）で明らかにした上で事業方式を選定するとして整理

石巻広域圏におけるごみ処理の課題及び検討方針等の整理（案）（3 / 3）

新ごみ処理施設整備における検討方針					基本構想への反映
検討方針区分	課題の概要	検討方針（案）修正前	検討方針（案）修正後	検討方針（案） 修正及び追加理由	
(5) 整備用地の検討方針	・脱炭素化技術の将来的な導入を踏 まえた整備用地の検討	①施設配置計画において、脱炭素に 関する技術の動向について検証 し、将来的な導入の可能性を検証 する。			必要面積、立地条件への影響が大き い検討項目として整理
	・石巻広域圏における資源化機能の あり方（現在検討中）を踏まえた 整備用地の検討	②現状と課題も踏まえ、石巻広域圏 における資源化機能のあり方につ いて検証し、新ごみ処理施設整備 における検討方針を定める。			
	・ごみの収集運搬に伴う二酸化炭素 排出量の削減		③適地選定における評価項目とし て、収集運搬効率を考慮する。	委員意見（No.9）による追 加	適地選定の評価項目として整理